

ZEPHYROS

ゼフュロス No.22

The National Museum of Western Art, Tokyo 国立西洋美術館ニュース

ISSN1342-8071



ジョルジュ・ド・ラ・トゥール
《ダイヤのエースを持ついかさま師》[部分]
油彩/カンヴァス 106×146cm
ルーヴル美術館蔵
Photo RMN/G rard Blot

日本初のジョルジュ・ド・ラ・トゥール展

会期: 2005年3月8日(火)～5月29日(日)

主催:国立西洋美術館／読売新聞社

今回「ラ・トゥール」展を開こうとしたもとの発想は、所蔵品に加えられたばかりの17世紀フランスの画家ジョルジュ・ド・ラ・トゥール(1593-1652)の作品を小さな展覧会形式に仕立ててお披露目しよう、というところにありました。昨年春(2003年度)に購入した作品《聖トマス》は、なにしろ、世界的にも僅か40点ほどの作品しか現存しない希少なラ・トゥールの真筆だったのです。数ある世界の美術館の中でも、この画家のオリジナル作品を所蔵するところはおく限られています。パリのルーヴル美術館にも真筆は6点しかないことを思えば、国立西洋美術館、ひいてはわが国にとって、この購入は大変な重みをもつ出来事だったと言わざるを得ません。

しかしこの最初の考えは直ぐに、ラ・トゥールという画家の全体像を示す展覧会開催という「途方も無いプロジェクト」に変更されました。なぜこのような言い方をするのかと言えば、豊富なコレクションを持つ欧米の美術館はともかく、極東の

日本初のジョルジュ・ド・ラ・トゥール展

小さな美術館が、最大級の国際的な評価を受け、借り出せる作品が極めて限定されている作家の「個展」をすることは、ほとんど考えることができなかったのです。ましてや、僅か1年余りという短い準備期間しか持てない時点では、およそ無謀な企てと言うしかなかったかもしれません。しかし、今やフェルメールやカラヴァッジョなどに匹敵する世界的名声をもちながら、わが国においてはあまり知られることのなかった神秘的な画家の世界を、この機会になんとしても一般の人々にも知って欲しい、という学芸員の素朴な欲求がまさったのです。

その原動力となったのがまさに、ラ・トゥールの真作をコレクションに持っている、という事実でした。ある作家の重要作品を収集に加え、それを核にして展覧会を開く…。展覧会開催に際してはこれ以上の説得的な理由は見当たりません。しかしこれは当たり前なようでいて、実はなかなか出会うことのできない展覧会の開催形態なのです。なぜなら、わが国の西洋美術品コレクションの大部分は、印象派やバルビゾン派、エコール・ド・パリを中心にした一部の近代作家に偏っているからです。多くの欧米の美術館では、展覧会はお互いの所蔵する作品を融通し合うことによって成立していますが、それは豊富な所蔵品の存在が大前提です。ですから、本来日本で欧米の古典美術の大展覧会を開くこと自体が、かなり無理のある力技なのです（実際に西洋美術館においても、所蔵品のオールド・マスター^{トールド・フォルス}〔古典作家〕の作品を中心に構成した小規模ながらも良質の国際展の開催例は、版画展を除けば、「ルーベンスとその工房展」-1993年-、「17-18世紀タピスリー展」-2003年-など僅かしかありません）。

かくして作品貸出を打診するために、フランスを中心とする各地の美術館に文字通り手探りの行脚を行ってみると、嬉しいことに、多くの美術館がわれわれの趣旨に賛同してくれました。残念ながらアメリカの美術館の協力はあまり得られなかったものの、どの美術館にとっても貴重な筈のラ・トゥール作品を、はるばるわが国に貸すことに同意してくれる所がかなりの数にのぼりました。とりわけ、画家の生地ロレーヌ地方のヴィック＝シュル＝セイユに近年開館したばかりの県立ジョルジュ・ド・ラ・トゥール美術館は、館の中心である2点の作品を東京に送り出してくれることになりました。これには本展の共同コミッショナーの元ルーヴル美術館絵画部長ジャン＝ピエール・キュザン氏やラ・トゥール研究の重鎮ジャック・テュイリエ教授らの尽力があったとはいえ、ラ・トゥールの真摯な芸術世界を心から愛し、日本の人たちに親しんでもらいたいという、ロレーヌ地方の人々の心からの好意の表れだったという気がしています。そして、それはまさしく、あの一見恐ろし気な顔をした《聖トマス》が西洋美術館に来てくれたお陰なのです。

(主任研究官 高橋明也)



- ◆「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール展」観覧料
- | | |
|-------|--------------|
| 一般 | 1,100円(800円) |
| 大学生 | 750円(410円) |
| 高校生 | 650円(350円) |
| 中学生以下 | 無料 |
- ※()内は20名以上の団体割引料金

ジョルジュ・ド・ラ・トゥール
《聖トマス》
油彩/カンヴァス 65×54cm
国立西洋美術館蔵

マックス・クリンガー版画展

《イヴと未来》《ある生涯》《ある愛》

the national museum of western art, tokyo

会期： 2005年3月8日(火)～5月29日(日)

マックス・クリンガー（1857－1920）は、19世紀末から20世紀初頭にかけて活躍したドイツの代表的な芸術家のひとりです。彼の活動は、絵画、彫刻、版画と多岐にわたり、絵画作品としては《キリストの磔刑》や《オリュポスのキリスト》（ともにライブツィヒ美術館）、《パリの審判》（ウィーン美術史美術館）といった代表作を制作しています。また彫刻では、1902年のウィーン分離派展に展示された《ベートーヴェン像》がよく知られています。

しかし、彼の芸術家としての評価を高めてきたのは、こういった絵画や彫刻の作品というよりも、むしろ版画でした。クリンガーは、生涯を通じてお

よそ450点の版画作品を制作していますが、なかでも連作として制作された14作は、彼の代表的なものとされています。国立西洋美術館には、この14の版画連作のうち11作が現在所蔵されています。

今回は、そのなかから3作、《イヴと未来》、《ある生涯》、《ある愛》を展示いたします。いずれの作品も、ひとりの女性を中心的モチーフとして扱っているもので、単に彼の想像力に富んだ幻想の世界を示すばかりでなく、社会の状況を批判的に捉える視点をも示唆するものとなっています。これらの作品は、近代社会における、モラルなどによって構築された性差をめぐる秩序とその欺瞞性の問題を考えさせるもの

となっています。それらが伝えてくるメッセージは、現在においても多くのことを考えさせてくれるアクチュアルなものと言えます。

（主任研究官 田中正之）



マックス・クリンガー
《ある生涯「夢」》 1884年
エッチング



マックス・クリンガー
《イヴと未来「イヴ」》 1880年
エッチング、アクアティント

◆常設展観覧料

一般	420円(210円)
大学生	130円(70円)
高校生	70円(40円)
※ () 内は20名以上の団体割引料金	
中学生以下	無 料

美術と人をつなぐもの-「びじゅつーる」の貸出がはじまりました

the national museum of western art, tokyo

2004年秋、当館では「ファミリープログラム」の一環として、“びじゅつーる”の無料貸出を開始しました。これは当館常設展示の作品を、大人と子どもが一緒に楽しめるようにつくられた道具（ツール）です。様々な切り口か



“びじゅつーる”を使い絵をよく見る

ら絵や彫刻を楽しむことをサポートするこの観賞補助ツールは、同年11月から2005年1月にかけて4種類が貸し出されました。

貸出は好調で、12月のある貸出日には1日で50組以上の方がツールを使ってくださいました。展示室のあちこちで、“びじゅつーる”を持ったファミリーが真剣に絵を見つめていたり、笑い声をあげていたり、ツールを媒介に作品とつながる感覚をみなさんが持っていたようです。使ってくださった方からは「作品を身近に感じることができてよかった」「家族と話し合いながら見られて楽しかった」「違う視点から見ることができ本当におもしろい観賞になった」等の感想をいただいています。

次の貸出は、2005年4月・5月の第2、第4土曜日（常設展無料観覧日）を予定しています。みなさんも、“びじゅつーる”を使っていつもとひと味違う常設展を楽しんでみませんか？

※ファミリープログラムを含む教育プログラムについては、当館のホームページ(<http://www.nmwa.go.jp/>)でもご案内しています。

（教育普及室 藤田千織）



円盤状のゲームを回してみる

2004年度に貸し出した4種類のツール



ファミリープログラム“びじゅつーる”貸出カレンダー

次回の“びじゅつーる”貸出の日程は下記になります。さらに違う種類のツールが登場しますので、ぜひご参加ください。

【4月】	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

【5月】	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

● … びじゅつーるの貸出日

※6月はお休み

「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール展」に関連して下記のプログラムを実施しますので、ぜひご参加ください。

◆連続講演会「ジョルジュ・ド・ラ・トゥールと17世紀フランス」

- ① 3月8日(火) 13:00～15:30 **2月22日申込締切**
 ジャン・ピエール・キュザン(元ルーヴル美術館絵画部長)
 田中英道(東北大学教授)
 「90歳の若い画家ジョルジュ・ド・ラ・トゥール—再発見の軌跡と最近の研究動向について」
- ② 3月19日(土) 14:00～15:30 **3月5日申込締切**
 樺山紘一(国立西洋美術館長)
 「17世紀ヨーロッパ世界とラ・トゥールの芸術」
- ③ 4月2日(土) 14:00～15:30 **3月19日申込締切**
 木村三郎(日本大学教授)
 「アトリビュートから読み解く、ラ・トゥール作《聖トマス》」
- ④ 4月23日(土) 14:00～15:30 **4月9日申込締切**
 田中英道(東北大学教授)
 「私とラ・トゥール『夜の画家』研究ノート」
- ⑤ 4月30日(土) 14:00～15:30 **4月16日申込締切**
 大野芳材(青山学院女子短期大学教授)
 「ラ・トゥールとロレーヌ公国の美術」
- ⑥ 5月7日(土) 14:00～15:30 **4月23日申込締切**
 塩川徹也(東京大学教授)
 「見えないものを描く—17世紀フランス思想とジョルジュ・ド・ラ・トゥールの作品世界」
- ⑦ 5月21日(土) 14:00～15:30 **5月7日申込締切**
 高橋明也(国立西洋美術館主任研究官)
 「ラ・トゥールの光と闇—ジョルジュ・ド・ラ・トゥール展解題」

会場：国立西洋美術館講堂

定員：145名(聴講無料。ただし、展覧会の鑑賞については別途観覧券が必要です。)

応募方法：往復はがきに、希望日(はがき1枚につき1希望日)、氏名(1名様限り)、住所(返信にも)、電話番号をご記入の上、下記の宛先にお申し込みください(締切日の消印有効)。

*応募者多数の場合は抽選になります。

宛先：〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7

国立西洋美術館「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール展」講演会係

◆スライドトーク

展覧会の見どころや主な作品について、夜間開館を行っている下記の金曜日に解説を行います。

日時：4月1日(金)、15日(金)、29日(金)、5月13日(金)、20日(金)
 毎回18:00～(約40分)

解説：大谷公美(慶應義塾大学大学院博士課程)

会場：国立西洋美術館講堂

定員：先着145名(展覧会観覧券が必要です。)

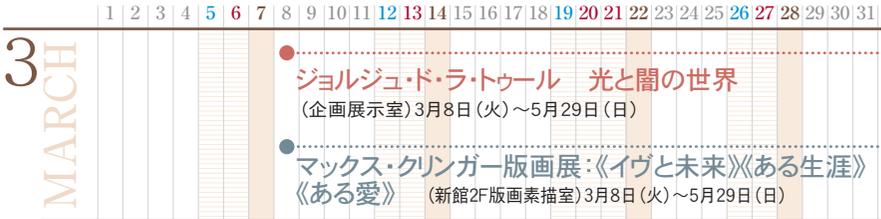
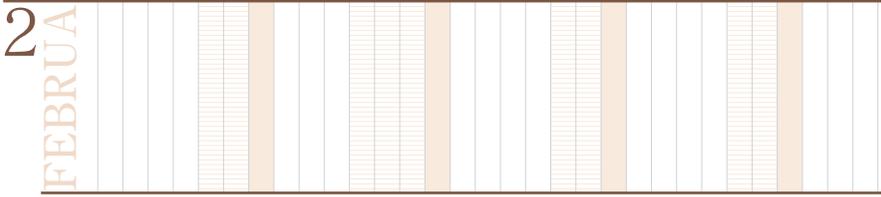
*直接講堂にお越しください。

展示カレンダー [企画展示/常設展示] 2005年2月～2005年7月

常設展示 (本館・新館)

ロダンの彫刻と、中世末期から18世紀末頃までのオールド・マスターの絵画を本館で展示しています。新館では、モネ、ルノワールなどのフランス近代絵画を中心に19世紀半ばから20世紀の絵画を展示しています。

■ 休館日
 ■ 土日・祝日



※ 展覧会名、会期、内容等は変更されることがあります。

国立西洋美術館

- 所在地…〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
- 開館時間
 通常…午前9時30分～午後5時30分(ただし、秋の企画展閉会日以降の開館日から春の企画展開催日までの開館期間中=午前9時30分～午後5時)
 毎週金曜日…午前9時30分～午後8時(入館は閉館の30分前まで)
- 休館日…月曜日(ただし、月曜日が祝日あるいは振替休日となる場合は翌火曜日) 年末年始(12月28日～翌年1月1日)
- 常設展無料観覧日…毎月第2、第4土曜日と文化の日(11月3日) [国際博物館の日] (平成17年5月18日(水))
- お問い合わせ…ハローダイヤル:03-5777-8600
<http://www.nmwa.go.jp/>

※ 誌名について…「ZEPHYROS」(ゼフュロス)はギリシャ神話の神々のひとりで、西風を司る神様の名前です。西欧では暖かさや色ざまざまの花々を運ぶ春の風をさします。

ZEPHYROS

ZEPHYROS 第22号

編集・発行 国立西洋美術館/平成17年2月20日(年4回発行)
 協力(財) 西洋美術振興財団
 印刷 (株) アイネット